

## 特別シンポジウムCS01

### 理事会企画シンポジウム—薬剤疫学者の必要性と薬学教育 Need for Pharmacoepidemiologist and Pharmaceutical Education

松木 則夫<sup>1</sup>, 望月 眞弓<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東大院薬, <sup>2</sup>慶應大薬

薬物治療における安全性確保は薬剤師や薬学研究者に課せられた使命である。薬剤師は薬物治療全体を俯瞰し、有効で安全に薬物治療が行われるよう管理する。医薬品の安全な使用を支える情報は、非臨床試験や治験そして市販後の臨床使用に至る様々な段階で創出される。従来 of 安全性情報は副作用症例の集積結果を基に創られてきたが、近年、薬剤疫学手法を用いたエビデンスレベルの高い研究の実践が求められている。薬剤疫学はこのよう医薬品の安全性の研究に有用な学問領域であり、薬学がその人材養成の中核をなす必要がある。しかし、薬学分野においては薬剤疫学を教育できる人材が不足し、大学における教育も不十分である。本シンポジウムでは、薬剤疫学と薬学に接点を持つ先生方に、薬剤疫学の本質を解説していただき、薬学関係者への提言をしていただく。

薬物治療の安全性確保だけでなく、創薬研究はもとより、治験、トランスレーショナルリサーチやレギュラトリーサイエンスなど薬学関係者が活躍できる場は多い。薬学部生の大半は薬剤師教育が中心の6年制の学生が占めている。しかし、需求バランスを考えると、6年制薬学部卒業生の全員が医療現場の薬剤師として働くことは不可能であり、キャリアパス拡大のためにもこうした動きは必要と考える。